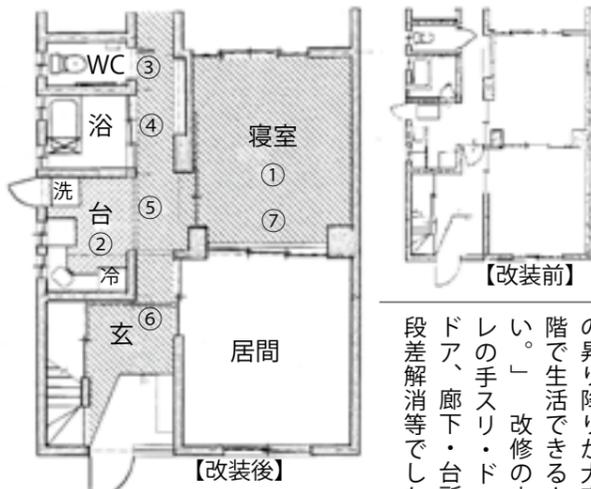


ほたる草

大阪市天王寺区東高津町12-10
 大阪市ボランティア情報センター内
 福祉と住環境を考える会「ふくてつく」
 発行責任者 代表：杉浦史郎
 TEL 06-6765-4041
 高齢者や障害者の住環境改善を目指すボランティアグループです
 ホームページ <http://www.osakacity-vnet.or.jp/link/hukuteku/>



西区 N邸 84歳 男性
 ふくてつく藤本会員からの紹介で4月初め、初期診断に行きました。藤本氏より地図をもらったのですが、N邸がわからず、本町りを行ったり来たり。この数階のビルの谷間にやっとN邸を見つけました。
 2階建の鉄筋コンクリートの古い建物で、老夫婦の2人住まい。対象者のご主人は病気で衰弱。「今2階で寝起きしているが、階段の昇り降りが大変なので1階で生活できるようにしたい。」改修の内容はトイレの手すり・ドア、浴室のドア、廊下・台所・寝室の段差解消等でした。久し振りに大改造の仕事です。奥さんに「介護認定は？」とたずねると、貰えないからお願いしたいと



浴室 右・新規の3枚引戸
 左・既存の開き戸

住宅改造 事例報告

人は病気で衰弱。「今2階で寝起きしているが、階段の昇り降りが大変なので1階で生活できるようにしたい。」改修の内容はトイレの手すり・ドア、浴室のドア、廊下・台所・寝室の段差解消等でした。久し振りに大改造の仕事です。奥さんに「介護認定は？」とたずねると、貰えないからお願いしたいと

つについて怒りと悲しみを込めて20分ほど語られました。要は所轄行政の担当の不手際と不親切により認定を貰えなかったとのこと。こういう話になると僕の血は非常に燃え上がります。「Nさん、僕にまかせといて下さい！」その後、いろいろな人の協力を得て着々と手

- ◎台所 床調整ベニヤ4mm
- ◎台所 上タイルカーペット厚7mm貼
- ◎玄関 廊下・寝室 床調整の上タイルカーペット厚7mm貼
- ◎浴室 開き戸↓3枚引戸(置変更)。浴槽への移乗台設置
- ◎台所 廊下 2ステンレス見切り
- ◎玄関 廊下 2建具取り除き、床段差なし。置変更で引戸設置
- ◎寝室 居間 2建具を塞いで遮音壁設置



浴槽への移乗台

小さちゃん 萩野光

ホームヘルパー「セクハラすると、こんな目にあうわよ！」

「第8回福祉住環境コーデイネーター2級検定試験」対策講座を終了して

6月30日に行われた「福祉住環境コーデイネーター2級検定試験」を受験される人を対象にした講座。4月6日から6月8日までの間、隔週土曜日、1日6時間半、6日間(延べ時間36時間半)の集中講座が終わりました。
 受講者は33名。定員30名を予定していましたが、8名を超えた時点でキャンセル待ちの申し込みもあり、3名は追加して受講していただきましたが、それ以外の方にはお断りをしました。「来るもの拒まず、去るもの追わず」のふくてつくとしては、受講希望者の方全てに参加していただければ良いのですが、受講生の顔が認知できず、講師の生の声で話せる(受講生が集中できる) 限りや、教室の広さ・講師の方々への負担も考え、33名としました。

た。今回の受講生は遠方の方も多く(明石市・三田市等)朝早くから熱心に受講されていました。
 講師の個性豊かな講座・試験対策用資料・小テスト等、試験に向けてのフォローは終わりませんでした。6月30日の試験終了後は試験問題の解答速報等をして、講座終了後のフォローとして、受講生の方々とキャッチボールしながらネットワークを強めていきたいと思います。講座は無事終了し、教室の手配に奮闘したボランティア情報センターの岩本さんをはじめ、6日間を一緒に講師をお引き受けくださった会員の方々や、資料作成や準備を含め朝から夕方まで会場に詰めていただいた光川さん山岡さんにお礼申し上げます。
 ★お知らせ★
 「第9回福祉住環境コーデイネーター検定試験1級 対策勉強会」
 二月24日に予定されています1級検定試験に向けての勉強会を開きます。8月中にテキストの発売及び試験内容の発表となっており、受検される方(受験資格 福祉住環境コーデイネーター2級合格者)で勉強

6月活動懇談会

NPO認証を祝う会を企画する件について
 10月の例会は、NPOふくてつくの事務所開きを兼ねてATCで行う事とする。例会終了後に、ささやかながらNPOの発足を祝う会を催す。
 ■10周年記念事業について
 推進委員として杉浦(委員長)、池端、畑、後藤、野山、岡崎、中北の各会員を確認。に、出版委員として、三浦、清水、山本、山藤各会員。
 1. 記念事業の性格は、あ

強会に参加される方は、各自テキストを購入してください。
 日時・場所 8月31日(土) ATC二階、エイジレスL
 午後1時〜4時
 9月7日(土) ボランティア情報センター会議室
 午前10時〜12時
 参加希望者は研修部会清水までご連絡ください。
 TEL 06-6714-6800
 FAX 06-6614-2103
 (記 清水 麗子)

まり堅いアカデミックなものにせよ、どちらかというところと楽しみのあるものとする。
 2. 参加者は、本会会員中心。あまり広範囲に呼びかける事はしないが、交流あるグループには案内する。
 3. 記念出版物の企画(案)が三浦さんから提示され、これに対して意見交換。出版企画については、実施するにしても肩に力の入らぬものにしたらという意見が大勢を占めた。
 まだまだ、まとまりのない状況ではあるが、ともかく楽しい企画に、という方向性は確認できた。次回は、その線に沿って具体的な内容を吟味したい。
 7月にある程度固めないと8月は休会、あつという間に秋になってしまおうのである。(記 中北 清)

建築基準法改正へ シックハウス症候群

建材などに含まれる科学的物質で体調を崩すシックハウス症候群をなくしようと、

定例会のお知らせ

8月	休会
9月	9月7日(土) 午後1時 30分〜5時
場所	大阪市立社会福祉センター内会議室(予定)
内容	学習会「病院の裏話」
講師	香川 雅昭氏 脳神経外科病院 事務長

対象となる科学的物質は、シロアリ駆除剤のクロルピリホスと、合板や壁紙などの接着剤から出るホルムアルデヒドの2種類。改正案は、居間や寝室など居室部分について、①クロルピリホスを出すおそれのある建材の使用を禁止。②ホルムアルデヒドの発生が少ない建材を使う。を趣旨としている。
 また、マンションなど気密性の高い建物には、換気設備が義務づけられる。違反した場合は是正命令などが出される。(読売新聞より)

10月にNPO法人となる予定ですが、これを機に「ほたる草」の紙を一新すべく思案中です。長くひとりで作っているのでマンネリ化しています。アイデア、ご意見等ありましたらご連絡ください。「私が作りましょう」という人募集中！ (和泉)



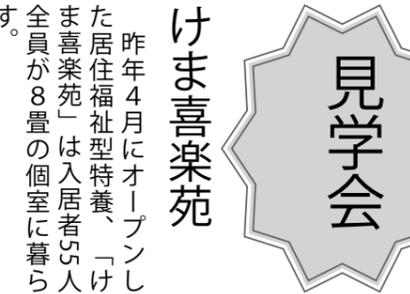
日常動作訓練室

ゆう愛フェスティバル

5月22日(日) すぎけん労働組合主催の「第3回ゆう愛フェスティバル(大阪)」にふくてつ木の木工教室が参加した。

事前に主催者と2、3回打ち合わせをして当日に望む。場所は堺筋本町テイジンのミニホールである。窓はなく天井は低く子どもたちの人数は約100名。時間が短いのでスタッフはたくさんになりながら子どもたちと木工作りを楽しんだ。

参加した有馬さん・八木八朗さん・高木さん・中北



見学会

けま喜楽苑

昨年4月にオープンした居住福祉型特養、「けま喜楽苑」は入居者の5人全員が8畳の個室に暮らす。

大切な思い出の家具などを持ち込み、いつでも家族が訪問でき、職員と理髪やエステ・買物と地域へも出掛ける。自室には洗面やシャワー付きトイレもあり、強要されずに排泄の自立が促され、オムツのとれる人もいるとか。自分の出来ることは自分で、役割分担もあり、生活リハビリにもなっている。

居室にこもらないよ



満さんそして光川は終わった時、お互いに「ご苦労さん、疲れたね」と言葉をかわした。ここまでやれたの

は有馬さん、新開さんが仕事の合間を、つて材料の準備をしてくれたからである。

すぎけん労働組合の人たちも非常に喜んで、やりがいがあったと一同は嬉しく思った。

子どもたちは自動車やのぼり人形がたいそう気に入ったようである。

(記 光川 隼子)

う、自力で立可能な低いベッド↓居室から出易くする↓同様の障害の人が低床の車イスで自走しているのを見る↓自分も試みる、など良い展開がある。

居室玄関は戸建て感覚があり、施設というより「住まい」である。独立性も高い。ユニットケアを組み込み、自室から出るとセミプライベートなこじんまりとした空間があり、ここで時間の自由



な朝食など、小人数ごとの個のケアが見られる。吹き抜けの中庭は明るく、入居者に意識されずにガラス越しの見守りが可能である。

良いことづくしの全室個室だが、実現には10年もかかっている。今年度から厚生労働省も推進しているが、どこまで改善されるか疑問である。

喜楽苑の実践に拍手を送りたい。

(記 浅井 喜)



食堂

ことば・コトバ

ハウスアダプテター 障害者や高齢者が暮しやすい住環境を考えるために、主にイギリスで発達した設計思想。既存住宅の改造や新築、転居まで含む。

障害者の移動を阻む障壁をなくす「バリアフリー」の考えに近いが、「ハウアダプテター」は、住む人の生活の広がり、精神的な豊かさの獲得まで目指し、幅が広い」と大原一興・横浜国大大学院教授は説明する。

(読売新聞より)

高齢者にやさしい照明計画

光の質にも配慮を



5月定例学習会
平成14年5月22日(土)
大光電機(株)
経営戦略室 販促広報部
部長 中尾 晋也 氏

* * *

一口に高齢者にやさしい照明といっても、色々な要素がある。加齢とともに、身体機能がどのように衰えて行き、それがどのような問題となるかについては、ここでは釈迦に説法なので省略する。

■ポイント1 明るい、しかし眩しくないこと。

20才頃は約2000lxの明るさで新聞が読めるが、60才では2倍、80才では3倍、88才では4倍の明るさが必要になる。しかし、これはあくまでも作業での明るさを

言うのであり、部屋の隅々まで均等に明るくする必要はない。欧米人と比べ、目にメラニン色素を多く持つ日本人は、眩しさへの抵抗力が強く、明るさへの強い願望もあって過度の照度を求める傾向にあるが、裸電球やちらつきを生じるランプの多用は高齢者には負担となっている。

本来、ルーバー式の器具が理想なのだが、事務所的イメージがあつて嫌われ、アクリルカバーの物が歓迎されている。アクリルカバーによっての減光は減光してしまふから、大きな矛盾である。

様々な生活行為(読み書き・団楽・食事など)に応じて、適切な変化のある多様な豊かな環境づくりのために、目的の違う多種の器具を組み合わせることを勧める。明るいばかりが能ではない。ただ、高齢者は明暗順応力が低下するから、暗線に沿った急な明るさの

変化は禁物である。明るさの変化は1/2以内にした。い、わかりやすい。

■ポイント2 使いやす

高齢者にとって、器具の手入れ(ランプ交換や掃除)が楽で安全である事がまず第一。近年の製品は随分と改良された。

次に、経済的である事。一時的な住宅で消費される電力は、エアコン・冷蔵庫に次いで、照明が約10%と多い。同じ明るさを得るのに蛍光灯は白熱灯に比して電気代1/4ランプ寿命6倍と言われているが、そのまま鵜呑みにはできない。蛍光灯の寿命は当初の照度の70%に減少する時間をい、寿命期間中ほとんど減光しない白熱灯と同様に比較できないのと、蛍光灯は一回の点滅で約1時間も寿命を縮めている(点滅の激しい所には不向き)。公表されている寿命は連続点灯の実験データであり、現実的ではない。

一方、白熱灯は点滅による寿命短縮もなく、50%に調光して使うと、寿命が2倍になる。白熱灯の調光は安価な設備によって可能であるから、豊かな環境創りとも併せて、是非活用した

い。また、ランプ価格は圧倒的に蛍光灯が高く(約8倍)、トータルコストでは必ずしも判定しがたいはずである。

次にランプが多種に及ぶと、取り替えが複雑になるから、できるだけ種類を少なくする配慮も必要である。またリモコンやセンサーなどを利用した器具の採用によって、高齢者が使いやすい工夫が望まれる。

■ポイント3 優しく、安心できる

高齢者特有の心身機能状況に伴って生じる、様々なバリアに対して、安全を保つ対応が欠かせない。足元の照度は特に大切である。夜中に何度もトイレへ行く傾向がある高齢者への配慮として、人感センサーによってスロースタートできる器具を使うと、消し忘れの防止はもちろん、いきなり明るくなりすぎて覚醒してしまう(再び眠れなくなる)事を防ぐ事ができる。防犯についても、明るくすることが効果的である事が知られている。明るさを感じて自動で点灯・消灯する



仕掛けや、人感センサーによる点灯システムが好ましい。

■ポイント4 生き生き暮らす

活動的で穏やかな日々を送るために、快適な照明は大切な要件である。テレビの音やエアコンの調節には気を配るのに、照明に何の配慮もないのが、日本の現状ではないか。

先に述べたように、明るいばかりではなく、光の質にも配慮して、全ての生活シーンに合わせた様々な演出ができるような照明計画がしたいものだ。デザイナーはすぐに建築や家具を美しく見せる事をばかり望むが、本当に美しく見せるべきは生活者のはず。

だいたい、人はその時々視点で空間を立体的に把握しているのであり、設計士が平図だけで照明計画を進めるような乱暴が横行している事が問題であろう。設計図にも大概は「電灯・コンセント図」としてごちゃまぜに扱われているのは許せない事だ。

【質疑応答から】

■病院に癒しの照明計画を入院体験するとよくわかるが、病院の照明は医療を施す側の理屈が優先してい

て、患者にとつての癒への配慮がない。残念なことだ。

■光の色と心理

光は波動であり、その影響は視力の有無に関わらずに確かに存在する。紫く赤のスペクトルはだいたい順に頭から下半身に至る、身体各部に参与しているという説がある。例えば、頭痛を癒すはちまきは紫。ふんどしは赤が定番だ。

男女による興味深い差があつて、男は赤色で興奮し、女は紫色でその気になる。理性主導と感性主導の差が。

子どもの誕生を切望する夫婦への助言に、妻の排卵日に夫のゴルフを勧めるというものがあるそう。一日、緑の中でプレーして帰宅すると、補色である赤が強く意識されて、その効が高まるらしい。

(中北 清)



子ども 木工教室



エフ・エー 木工教室

3月31日(日)朝から晴天。阿倍野区大長ハウスで3回目の木工教室です。

今回は高木さんがリーダー。大道具の説明がおもしろおかしくして解りやすく、それを聞いていた私は非常に嬉しく思いました。大長ハウスのスタッフが木片を提供してくださり、それを使って子どもや親御さんが熱心に製作。物作り(の心)がもわかってくれればと我々は願いつつ、ボランティアを続けています。

子ども達は午前は午後と約50名の参加。ノコギリやカナヅチを初めて使う子ども、完成して帰る時はちよっとした大工さん気取りで作品を持ちかえり、その様子にやっけて良かったと思う一日です。

参加者は有馬さん・平松さん・八木八朗さん・高木さん・光川の5名でした。



キッズ プラザ

4月7日(日)、すっかり定着した「てづくり木工ひろば」。今回は「ねじアニマルを作ろう」です。ねじアニマルは2回目ですが、前回よりも角材を10mm細くしました。池端さんがリーダーで、親子で作りました。説明を聞いてから挑戦です。

どの子どももノコギリを扱うのは初めてのようで、少し

手を切った子もいました。たが一所懸命で、出来あがった馬のねじアニマルを持って嬉しそうでした。その姿を見て、ここまでになるには苦労もありました。が、いろんな方の応援でやってこられたことに深く感謝しています。

中北満さんは自分の道具を持参しての参加。その姿勢を見て、これからの木工部会のあり方を考えさせられました。

キッズプラザでの木工ひろばの次回は8月。夏休みでもあり、子どもも親も楽しめる作品を考えたいと思っています。キッズプラザ担当の李さん、いつもありがとうございます！
参加者 平松さん・高木さん・中北満さん・池端さん・光川の5名。
(記 光川 隼子)

こども カーニバル

ふくてつく木工部会の目とも言える「大阪市こどもカーニバル」が4月28日(日)大阪城公園太陽の広場で行われました。



この日を楽しみにしている会員も多いとみえ、木工好き、子ども好き、お祭り好き(私です)のわが揃い、ふくてつくからご名、大和川園から2名の応援(いつもありがとうございます)、運搬を手伝ってくれた(株)福神の若い男性2名、と大所帯です。しかしそれでも人手が足りない程の人数で、子どもに親も加わって、足の踏み場もないくらいです。

子どもより一所懸命になつてお父さんを見ていただけでも楽しいものです。テント2張の下、子どもの声とカナヅチの音が響き頭ガンガン。しばし隣のボランティア情報センターさんのテントで一休み。冷たいお茶に救われました。広場の中をぐるっとひとまわりしてみました。が、いろんな遊びや物作りがある中、「やっぱ木工教室が一番ええ！」と自我自賛。お天気に恵まれ、子どもも親もスタツフ也十分楽しめた一日でした。
(記 和泉 秀子)

震災から7年神戸は今 ボランティア活動から得た事



6月定例学習会
平成24年6月1日(土)
神戸市鶴台中学校教諭
中溝 茂雄 氏

当時、私は神戸の鷹取中学校に理科教師として勤めていた。1月11日は連休明だった。奇しくもこの日の金曜日に、地震について授業をした所であった。

私が住んでいた須磨区の山手は殆ど被害がなかったが、海側へ降りるに従い世界のように甚大な被害に驚愕しながら学校へ急いだ。隣接する長田地区の火災で、東の空は煙がたちこめ、夜の明けるのが遅かったように覚えている。直ちに体育館を皮切りに避難所が開設され、長田地

区から約1700名、校区内から700名、近くの商店街にある病院の入院患者、医師・看護師、家族が約1000名の総数約2500名が集まる避難所となった。

大半が校区外からの避難者であったこと、在日朝鮮韓国人に加え、ベトナム難民120名、ペルーからの出稼ぎ者等も多数抱えるという特殊な事情があった。初期対応は困難を極めた。その上、周辺には家屋半壊状態で難渋する市民、約3800名の衣食住を確保する必要もあったのである。

初日には教室のガラスが割られるなど、対応をひとつ間違えば、暴動すらおきかねない状況があった。どこからも指示もないまま、全てを学校独自の判断で行わねばならなかった。食料も水もない、電気もガスもない中で懸命の活動が続いた。やがて被災者の方々と

少しずつ信頼関係が築かれるようになり、3日目に北陸電力の発電車両が到着すると、館内放送を駆使して情報伝達を行うとともに、被災者の班分けと自治シテムの構築に着手した。

「やがて避難所の同窓会ができるように」という校長の掛け声に被災者も次々と呼応したのである。鷹取中学校では前年に、ボランティア委員会が立ち上げられていて(まるで地震に備えていたようだが)、地域活動は活発で、地域に開かれた学校であった事も幸いして、多くのボランティアが集まってきた。あらゆる支援は拒まず受け入れることにしたので珍しく、マスコミで連日のように取り上げられるようになった。

実際、この頃には中国九州地方からの市町村職員や長期ボランティア、ボーイスカウト、自衛隊、それにあまり大きな声ではいえないが、その筋の強力な応援隊までもが同居するという不思議な世界であった。それほど、みんなが助け合っていたのである。前述したように、避難所であると同時に地域へのサービス拠点として、保育所から児童館にい

たるまで、殆どあらゆる機能が備わっていた。無いのは警察と裁判所くらいのものであった。

震災から1ヶ月がたち、避難者の自立が課題となってきた。しかし周辺では物資や食料を求めて避難所へ来られる方は、まだまだ増加する勢いであった。そのような多数の方に対応するためには、ボランティアも

しっかりとした組織を作つて機能的に対応しなければならぬ。しかしながら組織を作れば作るほど、事務的、機械的になって細かなニーズへの対応ができなくなる心配も生じる。組織的対応の網の目からこぼれ落ちる被災者をいかに救うことができるかが大きな課題となるのだ。(スライドで



当時を振り返りながら興味深いエピソードの数々が語られる……)

そもそも周辺地域にはいわゆる同和地区があつて、こんなにもと驚くような差が存在していた。家賃レベルが低い地域に1人暮らしをせざるを得ない高齢者や外国人が多く居住し、当然の事ながら頼れる友人や親もない。

不登校だった子が、いつの間にか高齢者の世話をしている。そんな子だからこそ気配りできる所もあつたのだらう。それ以来、彼女は自信をもって生きるようになった。

の子は、避難所が撤収されると自分の働く場がなくなると怒り出す始末。どこか役に立つ所はないかというので、問題を起ささないかと心配しながら、ある施設を紹介したが、後日様子を聞けば、職員顔負けに振る舞っているとか……。

夏休みの頃には、他の学校に先駆けて校内の避難所は完全に撤収する事ができた。今度は地域の仮設住宅支援が始まる。物資の配給や炊き出しは、人を集め、それぞれの自治組織を創る事に本来的目的がある。そこにまた子どもたちの活躍の場ができた。

避難所でのボランティア活動から得た事は膨大だ。ボランティア活動のあり方、コーディネート的重要性、そして本来的意味での「防災」とは何か、学校がたすべき地域での役割とは? 福祉教育の重要性、等々……

今、災害復興尾住宅では、高齢者ばかりの状況となり生活サポートが急務である。社会的弱者にとつての普段の防災という視点と、ボランティア活動を基盤としたまちづくりを構築できないものだらうか。
(記 中北 清)